

# 日経平均 夏までに3万9000円目指す

野村アセットマネジメント チーフ・ポートフォリオマネージャー 福田泰之氏



日経平均株価は上昇基調が続  
き、春から夏のどこかで3万  
9000円をうかがう展開になるだ  
ろう。海外の機関投資家を中心  
に日本株への期待が強い。主因  
は中国からのマネーの流入だ。  
中国では不動産セクターの不調  
を背景にした景気低迷の出口が  
見通せない。投資をためらう海

外の投資家が増えており、日本  
がその受け皿になっている。  
日本のマクロ環境は良好だ。  
春季労使交渉で連合は30年ぶり  
の上昇率を達成した昨年以上の  
賃上げ目標を掲げる。十分な賃  
上げが達成されれば、インフレ  
と賃上げ、価格転嫁の好循環に  
より、企業収益の向上が期待で

きる。企業による設備投資や個  
人の「貯蓄から投資」への流れ  
が加速し株価を押し上げる。

セクターでは電子部品や半導  
体などに注目だ。在庫の調整が  
進んでおり期待が持てる。

東京証券取引所は1月から資  
本コストや株価を意識した経営  
に向け取り組む企業の公表を始

めた。取り組みの開示をためら  
う企業には圧力となり、日本企  
業全体の底上げにつながる。株  
主還元を強化する企業が継続し  
て出てくるようになるだろう。

夏以降、調整する場面も出て  
くる。市場は米連邦準備理事会  
(F R B)による複数回の利下  
げを想定している。米国の消費  
者物価指数(C P I)の上昇率  
の鈍化や逼迫した雇用状況から  
すると、過度な織り込みとなっ  
ている。

利下げ期待は夏以降にしば  
み、日経平均は3万4000円を下  
値に下落するだろう。11月には  
米国で大統領選を控え、不透明  
感が強まることも、株価を抑え  
る要因となる。年末に向けて大  
統領選の通過に加えて、F R B  
の金融政策に方向感が見えてく  
る。日本のファンダメンタルズ  
(経済の基礎的条件)の強さも  
合わせ、25年には日経平均4  
万円が視野に入る。

(聞き手は飯島圭太郎)